安全データシート

硫酸ニコチン

改訂日：2024-01-29　版番号：1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: 硫酸ニコチン
CB番号	: CB8680448
CAS	: 65-30-5
同義語	: 硫酸ニコチン

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 殺虫剤・防虫剤
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	： Chemicalbook
住所	： 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	： 010-86108875

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

2006/12/18 (環境に対する有害性についてはH18.3.31)、GHS分類マニュアル(H18.2.10 版)

物理化学的危険性

有機過酸化物　分類対象外

金属腐食性物質　分類できない

酸化性固体　分類できない

酸化性液体　分類対象外

水反応可燃性化学品　分類対象外

自己発熱性化学品　区分外

自然発火性固体　区分外

自然発火性液体　分類対象外

自己反応性化学品　分類対象外

可燃性固体　区分外

引火性液体　分類対象外

高圧ガス　分類対象外

支燃性・酸化性ガス類　分類対象外

可燃性・引火性エアゾール　分類対象外

可燃性・引火性ガス　分類対象外

火薬類　分類対象外

健康に対する有害性

急性毒性(経口)　区分2

急性毒性(経皮)　区分1

急性毒性(吸入:ガス)　分類対象外

急性毒性(吸入:蒸気)　分類できない

急性毒性(吸入:粉じん)　分類できない

皮膚腐食性・刺激性　区分2

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性　区分2A-2B

呼吸器感作性　分類できない

皮膚感作性　分類できない

生殖細胞変異原性　分類できない

発がん性　分類できない

生殖毒性　区分2

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)　区分2(中枢神経系)

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)　区分3(気道刺激性)

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)　分類できない

吸引性呼吸器有害性　分類できない

環境に対する有害性

水生環境急性有害性　区分2

水生環境慢性有害性　区分2

ラベル要素

絵表示又はシンボル

GHS06	GHS09

注意喚起語

危険

危険有害性情報

長期的影響により水生生物に毒性

水生生物に毒性

呼吸器への刺激のおそれ

中枢神経系の障害のおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

強い眼刺激

皮膚刺激

皮膚に接触すると生命に危険

飲み込むと生命に危険

注意書き

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。

皮膚に付着した場合、直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを求めること。

直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、又は取り除くこと。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。

吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

漏出物は回収すること。

【保管】

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

【廃棄】

施錠して保管すること。

飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。

【応急措置】

環境への放出を避けること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

粉じん、ヒューム、スプレーを吸入しないこと。

眼、皮膚、又は衣類に付けないこと。

適切な個人用保護具を使用し、ばく露を避けること。

適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。

適切な保護手袋、保護衣を着用すること。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

使用前に取扱説明書を入手すること。

【安全対策】

---

3. 組成及び成分情報

化学名又は一般名	: 硫酸ニコチン
別名	: (S)-3-(1-メチルピロリジン-2-イル)ピリジン 硫酸塩(2-1) (S)-3-(1-methylpyrrolidin-2-yl)pyridine sulfate (2-1)
分子式(分子量)	: $C_{20}H_{30}N_4O_4S$ (422.55)
CAS番号:	: 65-30-5
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	: 化審法-(9)-990　安衛法-8-(1)-681
分類に寄与する不純物及び安定化添加	: 情報なし
物	:
濃度又は濃度範囲	: 1

---

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

医師の手当、診断を受けること。

皮膚に付着した場合

化学物質が除去されるまで、多量の水と石鹸で洗うこと。

医師の手当、診断を受けること。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぐこと。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

目に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

医師の手当、診断を受けること。

---

5. 火災時の措置

消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

棒状放水

特有の危険有害性

火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

消火水は汚染を引き起こすおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護

適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

---

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

作業者は適切な保護具(『8.ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立入りを禁止する。

風上に留まる。

密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

回収・中和

漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。

封じ込め及び浄化方法・機材

危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

---

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気

『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項

使用前に使用説明書を入手すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

飲み込まないこと。

粉じん、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

眼、皮膚又は衣類に付けないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

環境への放出を避けること。

接触回避

『10.安定性及び反応性』を参照。

保管

混触危険物質

『10.安定性及び反応性』を参照。

保管条件

酸化剤から離して保管する。

容器を密閉して冷乾所にて保存すること。

施錠して保管すること。

容器包装材料

国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

日本産衛学会(2007年版)

未設定

ACGIH(2007年版)

未設定

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。

保護具

呼吸器の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具

適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。

衛生対策

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	固体(結晶)
色	無色
臭い	データなし
pH	データなし
データなし	

データなし

データなし

244℃ : ICSC (Access on Sep. 2008)

可燃性 : ICSC (Access on Sep. 2008)

データなし

1.96E-011mmHg(25℃)(推定値) : PHYSPROP (Access on Sep. 2008)

相対蒸気密度(空気=1): 14.5 : ICSC (Access on Sep. 2008)

データなし

1.15 (水=1) : ICSC (Access on Sep. 2008)

水 よく溶ける : ICSC (Access on Sep. 2008)

水 2.06E+005mg/L(25℃)(推定値) : PHYSPROP (Access on Sep. 2008)

logPow=0.4 : PHYSPROP Database (2005)

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

融点・凝固点

データなし

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし

引火点

データなし

自然発火温度

244℃ : ICSC (Access on Sep. 2008)

燃焼性(固体、ガス)

可燃性 : ICSC (Access on Sep. 2008)

爆発範囲

データなし

蒸気圧

1.96E-011mmHg(25℃)(推定値) : PHYSPROP (Access on Sep. 2008)

蒸気密度

相対蒸気密度(空気=1): 14.5 : ICSC (Access on Sep. 2008)

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

比重(密度)

1.15 (水=1) : ICSC (Access on Sep. 2008)

溶解度

水 よく溶ける : ICSC (Access on Sep. 2008)

水 2.06E+005mg/L(25℃)(推定値) : PHYSPROP (Access on Sep. 2008)

オクタノール・水分配係数

logPow=0.4 : PHYSPROP Database (2005)

分解温度

データなし

粘度

データなし

粉じん爆発下限濃度

データなし

最小発火エネルギー

データなし

体積抵抗率(導電率)

データなし

---

10. 安定性及び反応性

安定性

法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる

危険有害反応可能性

加熱すると分解し刺激性あるいは有毒なヒュームやガスを放出する。

強力な酸化剤と激しく反応する。

避けるべき条件

データなし

混触危険物質

酸化剤

危険有害な分解生成物

イオウ酸化物、窒素酸化物

---

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットにおけるLD50 = 50 mg/kg(RTECS(2003), 83 mg/kg (HSDB(2003))のうち、値の小さい方(50 mg/kg)を採用し区分2とした。【注】なお、健康有害性に関しては、ニコチン(ID608、CAS: 54-11-5)も参照のこと。

経皮

ラットにおけるLD50 = 285 mg/kgおよびウサギにおけるLD50 = 50 mg/kg(いずれもRTECS(2003))のうち、値の小さいウサギのLD50値を採用し区分1とした。

吸入

吸入(ガス): GHS分類における固体である。

吸入(蒸気): データなし。

吸入(粉じん): データなし。

皮膚腐食性・刺激性

Priority 2において、ヒトの皮膚に対して刺激性を示す記述がある(ICSC(J)(1997), SITTIG(4th, 2002), HSFS(2002))ため区分2とした。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

Priority 2において、ヒトの眼に対して刺激性を示す記述がある(ICSC(J)(1997), SITTIG(4th, 2002), HSFS(2002))ため区分2A-2Bとした。なお、本データからの細区分は困難である。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性:データなし。 皮膚感作性:Priority 2において、農薬による皮膚炎を生じた野菜生産者に対する本物質を用いたパッチテストの結果、10~28%の人が感受性を示したとの報告がある(HSDB(2003))が、報告が1例のみであり、データ不足で分類できない。

生殖細胞変異原性

データなし。

発がん性

データなし。

生殖毒性

本物質の妊娠マウスへの腹腔内投与により頭部顔面異常がみられていること(RTECS(2003))、「動物実験では人の生殖に毒性影響を及ぼす可能性があることが示されている」との記述があること(ICSC(J)(1997), SITTIG(4th, 2002), HSFS(2002))、加えて、ニコチン(ID608, CAS: 54-11-5)による生殖への影響が示唆されていることから、ニコチンと同様、本物質も区分2とした。ニコチン(ID608, CAS: 54-11-5)の生殖毒性を参照のこと。

---

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性

甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50=3250μg/L(AQUIRE、2003)から、区分2とした。

水生環境慢性有害性

急性毒性が区分2、生物蓄積性が低いと推定されるものの(log Kow=0.4(PHYSPROP Database、2005))、急速分解性がないと推定される(BIOWIN)ことから、区分2とした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

IMOの規定に従う。

航空規制情報

ICAO/IATAの規定に従う。

UNNo.

3445

ProperShippingName.

Nicotine sulphate, solution

Class

6.1

(注意:物質純度に応じて、複数の国連番号あり)

航空法の規制に従う。

国内規制

陸上規制情報

毒劇法の規制に従う。

海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報

航空法の規定に従う。

特別安全対策

移送時にイエローカードの保持が必要。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

緊急時応急措置指針番号

151

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法

毒物(指定令第1条)

船舶安全法

毒物類・毒物

航空法

毒物類・毒物

港則法

毒物類・毒物

労働基準法

疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条・別表第1の2第4号1・昭53労告36号)

---

16. その他の情報

略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA:国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト https://www.mhlw.go.jp

【2】化学物質審査規制法(化審法)https://www.env.go.jp

【3】化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) https://www.chemicoco.env.go.jp

【4】NITE化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP)https://www.nite.go.jp/

【5】カメオケミカルズ公式サイト http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple

【6】ChemIDplus、ウェブサイト http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト https://echa.europa.eu/

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイトhttp://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイトhttp://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイトhttp://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp

【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm

【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト http://www.iarc.fr/

【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイトhttp://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト https://www.sigmaaldrich.com/

免責事項：
本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。